

授業概要

心理学実験Ⅱでは、知能検査、性格検査（作業検査法・投影法）、調査実習、態度測定、社会心理学的実験に関する実験種目を扱う。受講生は毎回、6名程度の小グループに分かれて実験実習に取り組む。1つの実験種目につき1週から3週をかけ、実験の実施、データの記録・整理、データ分析を行う。そして、実験結果を元に、各自が実験レポートを作成する。

授業計画

第1回	ガイダンス（授業での約束事、実験種目などの説明）
第2回	知能検査（1週目）
第3回	知能検査（2週目）
第4回	社会心理学的実験（1週目）
第5回	社会心理学的実験（2週目）
第6回	態度測定（1週目）
第7回	態度測定（2週目）
第8回	調査実習（1週目）
第9回	調査実習（2週目）
第10回	調査実習（3週目）
第11回	作業検査法
第12回	講義・検査法とは
第13回	投影法（1週目）
第14回	投影法（2週目）
第15回	統括（実験Ⅰ・実験Ⅱを通しての全体まとめ）
第16回	最終レポートの受領

※進行状況によって、内容の入れ替えや変更が生じる場合がある。

到達目標

実験レポートの作成を通し、実験結果を科学的事実として報告するための論文の書き方を理解することが目標である。実験レポートの作成方法の習得は、心理学領域での卒業論文の作成につながるため、心理学系の教員の指導を受けて卒業論文を執筆したいと考えている学生は、受講することが望ましい。

履修上の注意

- 各種実験ごとにレポートを作成し、提出する。提出期限は実験終了後2週間以内とする。1種目でもレポートが未提出となると、評価の対象外となり単位が取得できない。詳細については、ガイダンスにて説明する。
- 遅刻をすると全体の進行状況に悪影響を及ぼすため、原則として遅刻は許されない。遅刻理由によっては、評価の対象外となり単位が取得できない可能性もあるため、注意すること。また、やむをえない理由で欠席・遅刻をする場合には、心理学実験室に連絡を入れること。
- 実験の実施やデータ解析に関する方法、実験レポートに記述すべき内容などは、実験種目によって異なることがあるため、各種目の担当教員からの指示に十分な注意を払うこと。
- なお、心理学実験Ⅱを受講する前に心理学実験Ⅰを履修し、合格していなければならない。

予習・復習

- 各種目は、2回または3回で構成されている。確実に復習をしておかないと、次の回がスムーズに進めることができなくなる。また、レポートを書くことに困難が生じる。そのため、復習は必須である。

評価方法

各レポートの評価を総合して評価を行う。6種目の実験レポートの評価配分は均等であるが、受講学生の状況をみて各レポートの評価の重みづけを多少変える可能性がある。

テキスト

テキストは指定しない。